

子どもの安全確保 最重点

防犯まちづくり 県民会議が総会 刑法犯減目標確認

官民でつくる「しずおか防犯まちづくり県民会議」(会長・鈴木康友知事)は12日、本年度総会を県庁で行った。最重点に位置付ける「子どもの安全確保対策による被害防止」をはじめとした5項目を活動重点に決め、2023年に増加に転じた刑法犯認知件数については、25年末までに年間1万2千件以下に減らす目標を維持した。

県や県警などが22年に制定した、毎年6月11日と10月11日の「子ども見守り強化の日」の周知と啓発を加速させる方針で一致。特殊詐欺に加え、被害が急増中のSNS型投資・ロマンス詐欺の注意喚起にも力を入れる。23年に増加した自転車・オートバイ盗の対策も重点に盛り込み、高校生や大学生を中心に施錠の徹底などを呼びかけていく。

鈴木知事は「安全安心な静岡県をつくっていくことは県民共通の認識」とあい

さつし、さらなる協力と情報交換の加速を期待。津田隆好県警本部長は「『見守り強化の日』も活動を通じて連帯感を高めている。県民運動として展開したい」と強調した。

総会では、常葉大と県農協暴力防犯対策協議会が、日頃取り組む各種防犯活動を報告した。県シルバー人材センター連合会、県ボランティア協会、県私立幼稚園振興協会の新規加入を承認し、同会議の構成団体は112になった。

(社会部・荻島浩太)